

令和6年度 学校教育自己診断の結果と分析

大阪府立住吉商業高等学校

結果

【生徒回答】

◇高評価（85%以上）

- 3 将来の進路や生き方について考える機会がある。(87.3%)
- 6 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。(88.3%)
- 8 学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している。(96.1%)
- 12 進路についての情報をよく知らせてくれる。(90.7%)
- 13 自分の考えをまとめ、発表することがある。(88.6%)

◆低評価（60%未満）

なし

【教職員回答】

◇高評価（85%以上）

- 2 教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(86.3%)
- 9 コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている。(100.0%)

◆低評価（60%未満）

- 10 教員間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。(59.1%)
- 12 各種会議が教職員間の意思の疎通や意見交換の場として有効に機能している。(54.5%)
- 13 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。(59.1%)
- 14 校内研修は教育実践に役立つような内容になっている。(45.5%)
- 15 この学校では清掃が行き届いている。(59.1%)

【保護者回答】

◇高評価（85%以上）

- 4 学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(84.9%)

◆低評価（60%未満）

- 2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。(50.0%)
- 8 授業参観や学校行事に参加したことがある。(57.5%)

分析

本校では、高評価（肯定的回答 85%以上）・低評価（肯定的回答 60%未満）を基準とするとともに、前年度比を加味して分析を行った。

生徒回答では、全 13 項目のうち 11 項目において肯定的な回答が前年度を上回った。前年度を下回った項目は、「学校行くのが楽しい」（▲0.3 ポイント）、「文化祭、体育祭、修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている」（▲12.8 ポイント）であった。生徒の実情、教育的効果など総合的な観点で、学校行事の内容について精査する必要がある。

教職員回答では、各種会議における教職員間の意思疎通や意見交換に対する肯定的な回答の割合（54.5%）は、昨年度（46.4%）を上回ったが、依然低水準である。活発に学校組織として取り組んでいく必要がある。

保護者回答では、おおむね昨年度と同程度の肯定的な回答があった。その中で、「授業参観や学校行事に参加したことがある」においては、昨年度から 13.1 ポイント増加し、57.5%であった。保護者の学校への関心が今後も高まるよう、普段から保護者との連携強化に努めたい。